

## 令和元年度 第3回広島市感染症対策協議会

令和元年6月17日

- 【日時】 令和元年6月17日(月) 19:00~20:00  
【場所】 広島市役所 14階第7会議室  
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、長岡 義晴、松原 啓太

### 1 感染症に関する最近の情報《公開》

#### (1) 麻しん患者の発生について (資料1 P1~22)

5月30日、本市において麻しん患者が1名発生した。患者は本市在住の30歳の男性で、5月10日にタイから帰国し、5月20日に発症(咳、熱感)、5月27日に医療機関を受診し、5月30日に遺伝子検査で麻しんと確定した。

6月1日以降、これまでに、初発患者と同じ会社に勤務する者から、6名の患者(広島市在住3名、東広島市在住2名、大竹市在住1名)が発生した。

本市においては、患者の行動調査や接触があったと思われる者への健康観察を行うとともに、患者が感染可能期間に利用し、不特定多数の者と接触した可能性がある施設や交通機関について公表し、市民等に注意喚起を図っている。また、医療機関や県と連携し、疑い患者の検査や緊急ワクチン接種等、まん延防止対策を行っている。

本市における麻しん患者の発生は平成26年以来5年ぶりであったが、県内では本年、上記患者を含め15名の発生があり、全国においては、2019年第22週(5月27日~6月3日)に麻しん患者が24人報告され、第1週からの累積患者報告数は590人となり、昨年1年間の報告数282人の倍以上となっている。

(委員意見)

- ・ 引き続き、まん延防止に努めてほしい。
- ・ 海外渡航時のワクチン接種の必要性について、市民へ周知してほしい。
- ・ 医師会と連携し、医療従事者等に対して感染症発症時の対応に関する研修会を開催してほしい。

#### (2) 平成30年の結核登録者の状況について (資料1 P23~24)

令和元年5月末で国が運用する結核登録者情報システムの平成30年年報集計の入力業務が終了し、本市の平成30年の結核患者の登録状況が確定した。

それによると、新登録患者数は108名、人口10万人あたりの罹患率は9.0であり、昨年に比べると患者数は1名、罹患率は0.1ポイント減少した。

また、108名の新登録患者を年齢階層別にみると、80歳以上の年代が約5割を占めており、結核患者の高齢化がみられた。

一方、新登録患者数に占める外国出生患者の割合は15.7%で、前年に比べて7.4ポイント増加した。外国出生患者の多くがフィリピン・中国・ベトナム等のアジア諸国の出身であり、年齢は10代~50代の比較的若い世代であった。

なお、国においては今後、自治体の入力内容を集計し、平成30年結核登録者情報調査年報集計結果として公表する予定である。

(委員意見)

- ・ 引き続き、罹患率の低下に努めてほしい。
- ・ 外国出生患者については、検査体制を見直す等、早期発見に努めてほしい。

**(3) 疑似症の定義及び疑似症にかかる指定届出医療機関の変更について(資料1 P25~46)**

国は、厚生科学審議会感染症部会における議論を踏まえ、より効果的に感染症の発生動向を把握するため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」を改正するとともに疑似症の定義及び指定届出機関の指定の基準を変更し、平成31年4月1日より施行した。

本市においても国の方針により、疑似症にかかる指定届出医療機関を変更するとともに、当該指定医療機関に疑似症の定義等の周知を図った。

なお、この変更に伴い、本市の疑似症にかかる指定届出医療機関は従前の61機関から9機関となった。

(委員意見)

特になし。

**2 5月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)**

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

### 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	5月分	6月分
		届出日 5/6~6/2	届出日 6/3~6/14 現在
2類	結核	6人 (結核2人、潜在性結核感染症4人)	
4類	A型肝炎	1人 (5/9)	
	デング熱	1人 (5/16)	
	レジオネラ症	2人 (5/20、5/30)	1人 (6/11)
5類	アメーバ赤痢	2人 (5/14、5/15)	
	ウイルス性肝炎	2人 (5/10、5/21、)	1人 (6/5)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2人 (5/7、5/15)	
	急性脳炎	3人 (5/7、5/16、5/20)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1人 (6/5)
	後天性免疫不全症候群	2人 (5/10、5/31)	1人 (6/11)
	侵襲性肺炎球菌感染症	4人 (5/8、5/17、5/20、5/23)	
	梅毒	12人 (5/7、5/8、5/9、5/10、5/20 (2人) 5/22 (2人)、5/28、5/30 (2人)、5/31)	3人 (6/3、6/7、6/10)
	百日咳	4人 (5/8、5/17、5/20、5/31)	
	風しん	2人 (5/6、5/10)	
麻しん	1人 (5/29)	3人 (6/5、6/8、6/11)	

( ) は届出日

### 4 その他《公開》

次回開催予定日 令和元年7月16日(火) 14階第7会議室

#### 【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：5月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

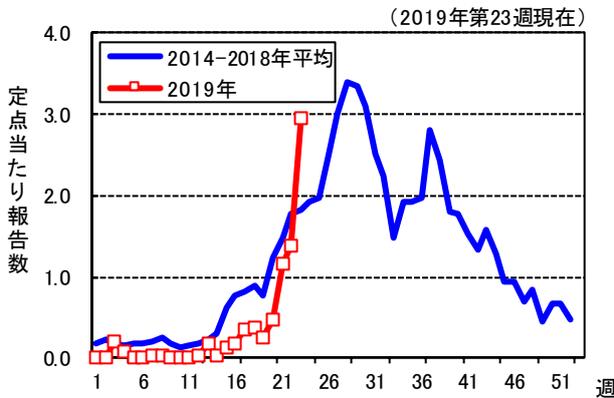
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、5月は1,209人で、前月比1.17とやや増加した。

咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎は大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、突発性発しんはやや増加、水痘はほぼ横ばい、インフルエンザ、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は大きく減少した。

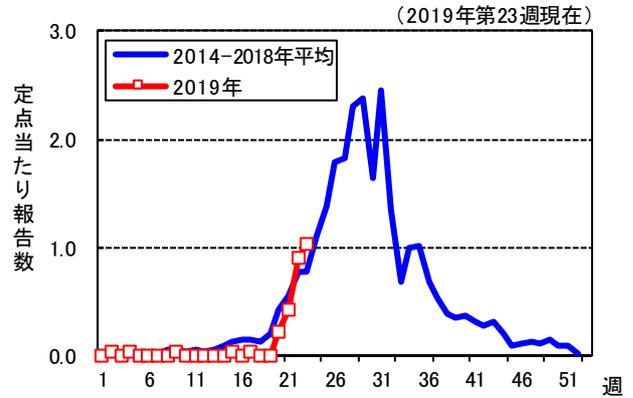
(2) 特記事項

- 咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナの報告数が増加傾向で推移している。これらの感染症は、例年、夏季を中心に流行しており、今後の動向に注意が必要である。手洗いの励行、排泄物の適切な処理、タオルの共用は避けるなど感染予防対策を徹底することが重要である。
- 広島市で5年ぶりに麻しん患者の報告が1件(5月29日届出)あった。その後、当該患者の接触者から麻しん患者の報告が続いており、今回の事例に関連する麻しん患者は、6月11日現在、広島市で4件、東広島市で2件、大竹市で1件報告されている。全国的にも報告数は増加しており、2019年第1～23週の累積報告数は617件と、昨年の年間報告数の279件(2019年3月4日暫定値)を大きく上回っている。麻しんは空気感染・飛沫感染・接触感染で感染し、その感染力は強い。10～12日の潜伏期間の後、発熱や咳、鼻水などの風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現する。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症すると言われている。また、10万人に1人の頻度で、麻しんウイルスに感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもある。麻しんの感染予防には、ワクチン接種が最も有効であり、定期接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)は早めに接種することを推奨する。また、過去に麻しんにかかったことがなく、予防接種歴が明らかでない場合は、予防接種を受けることを推奨する。

手足口病の定点当たり報告数



ヘルパンギーナの定点当たり報告数



(3) 5月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 6件（患者：2件、潜在性結核：4件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：A型肝炎 1件 デング熱 1件 レジオネラ症 2件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 2件 ウイルス性肝炎 2件  
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件  
急性脳炎 3件 後天性免疫不全症候群 2件  
侵襲性肺炎球菌感染症 4件 梅毒 12件  
百日咳 4件 風しん 2件 麻しん 1件

(4) 今後の流行予測

- 咽頭結膜熱・・・【流行始まり】
- 手足口病・・・【流行始まり】
- ヘルパンギーナ・・・【流行始まり】

## 2 検査情報

5月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	3月	1人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009型	4月	1人
	インフルエンザウイルス A(H3)型	4月	4人
	B型インフルエンザウイルス	4月	1人
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	A群溶血性レンサ球菌 T1型	3月	1人
感染性胃腸炎	ノロウイルス GII	4月	1人
	A群ロタウイルス	4月	1人
手足口病	ライノウイルス	4月	1人
その他の呼吸器疾患 (咽頭炎)	* アデノウイルス 1型	2月	1人
	* ヒトコロナウイルス OC43		
その他の呼吸器疾患 (クループ)	ヒトコロナウイルス OC43	3月	1人
その他の呼吸器疾患 (上気道炎)	ヒトボカウイルス	4月	1人
その他の呼吸器疾患 (気管支炎)	ヒトコロナウイルス HKU1	3月	1人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009型	4月	1人
その他の呼吸器疾患 その他の発疹性疾患 (肺炎)	ヒトメタニューモウイルス	3月	1人
その他の消化器疾患 (腸重積症)	アデノウイルス 2型	4月	2人
	アデノウイルス 3型	4月	1人
	アデノウイルス 5型	4月	1人
その他の発疹性疾患 (発疹症)	コクサッキーウイルス B5型	4月	1人
	ヒトボカウイルス	4月	1人
その他の疾患 (不明熱)	パレコウイルス 3型	3月	1人

\*：複数病原体検出例

24人の患者から16種類のウイルス24株及び1種類の細菌1株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H3)型5株、アデノウイルス2型、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009型、ヒトコロナウイルス OC43及びヒトボカウイルス各2株、アデノウイルス1型、同3型、同5型、B型インフルエンザウイルス、コクサッキーウイルス B5型、ノロウイルス GII、パレコウイルス3型、ヒトコロナウイルス HKU1、ヒトメタニューモウイルス、ライノウイルス及びA群ロタウイルス各1株であった。検出細菌の内訳は、A群溶血性レンサ球菌 T1型1株であった。

5類感染症定点情報  
(令和元年5月解析分)

1. 週報対象(第19週～第22週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ	↓	28	0.77		10	流行性耳下腺炎	↑	22	0.95	
2	咽頭結膜熱	↑	60	2.61	流	11	RSウイルス感染症	↓	21	0.91	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	238	10.35		12	急性出血性結膜炎		2	0.26	
4	感染性胃腸炎	↗	593	25.79		13	流行性角結膜炎		6	0.76	
5	水痘	⇒	27	1.17		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病	↑	76	3.30	流	15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑	↗	30	1.30		16	マイコプラズマ肺炎		2	0.28	
8	突発性発しん	↗	36	1.56		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ	↑	36	1.56	流	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↓	7	1.00	

2. 月報対象(5月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	↗	43	4.78
2	性器ヘルペスウイルス感染症		11	1.22
3	尖圭コンジローマ		14	1.56
4	淋菌感染症	↗	23	2.56
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	⇒	21	3.00
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		4	0.57
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減	↑	↓
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	↗	↘
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	↗	↘
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)	⇒	

予測記号

流行始まり	流 ↗
流行中	流 →
流行終息傾向	流 ↘
終息	終

全数把握感染症報告数(令和元年5月分)

第19週～第22週(5月6日～6月2日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ペスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	6	70	1,808	8,560	
	10 ジフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	1	3	
	16 細菌性赤痢	-	-	8	38	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	1	215	565	
	18 腸チフス	-	-	3	16	
	19 パラチフス	-	-	1	10	
四類	20 E型肝炎	-	1	49	213	
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	1	5	45	201	
	23 エキノコックス症	-	-	2	5	
	24 黄熱	-	-	-	-	
	25 オウム病	-	-	2	11	
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	27 回帰熱	-	-	-	-	
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-	
	29 Q熱	-	-	-	-	
	30 狂犬病	-	-	-	-	
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1	
	32 サル痘	-	-	-	-	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	13	27	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 テクングニア熱	-	-	1	3	
	40 つつが虫病	-	-	13	61	
	41 デング熱	1	2	33	132	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	-	-	25	41	
	46 日本脳炎	-	-	-	-	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	-	1	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 発しんチフス	-	-	-	-	
	54 ポツリヌス症	-	-	-	1	
	55 マラリア	-	-	6	18	
	56 野兎病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	1	1	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	-	
	61 レジオネラ症	2	7	160	596	
	62 レプトスピラ症	-	-	1	4	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	2	3	68	366
		65 ウイルス性肝炎	2	4	25	128
		66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	3	168	781
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	11	29
		68 急性脳炎	3	13	55	435
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	7
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	18	69
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	4	74	391
		72 後天性免疫不全症候群	2	6	87	466
		73 ジアルジア症	-	-	6	18
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	58	272
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	3	22
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	4	20	428	1,759
		77 水痘(入院例に限る。)	-	-	55	194
		78 先天性風しん症候群	-	-	-	2
		79 梅毒	12	38	595	2,647
		80 播種性クリプトコックス症	-	1	15	63
		81 破傷風	-	-	15	37
		82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	30	
84 百日咳		4	27	1,219	6,556	
85 風しん		2	13	224	1,658	
86 麻しん		1	1	123	590	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	3	15	